

平成28年度島根県協同組合連絡協議会学習交流会を開催

主催：島根県協同組合連絡協議会（生活協同組合連合会、島根県森林組合連合会、中国労働金庫、島根県農業協同組合中央会）



2016年7月29日（金）、林業会館にて、講師に夜久恭裕氏（NHK報道局おはよう日本ディレクター）ならびに高田公喜氏（広島県生活協同組合連合会専務理事）をお招きして学習交流会を開催しました。あわせて、平成27年度活動として実施した「枝打ちボランティア」への参加報告を行いました。この交流学習会へは、連絡協議会構成団体より55名が参加し交流をはかりました。

講演① 「島根と里山資本主義」

NHK報道局おはよう日本ディレクター
夜久恭裕氏



講演では、里山資本主義の生まれた経緯等の話をいただき、利益追求のマネー資本主義のサブシステムとしての里山資本主義の考え方等事例も交えお話しをいただきました。今世界が注目しているのは、「社会貢献をしながら利益を得る」いわゆるソーシャルインパクト投資といわれるもので、利益追求だけの姿では社会は受けつけない。よって、①身近な資産を生かす。②地域での経済を循環させる。③短期利益より長期的な利益を見据える。ことが大切であり、不安定なこの経済社会の安定化の一翼を里山資本主義が担っており、「投資」「若者」「指導者（技術）」の3要素がそろったとき、里山資本主義は開花するというお話がありました。

講演② 「協同組合と地域への参加」 広島県生活協同組合連合会 ～これからの生協はどう地域と関わるか～ 専務理事 高田公喜氏



今年で31年目を迎えた広島県における連絡協議会の活動、ならびにレイドロー報告にもとづく現在の協同組合の姿、協同組合原則変遷による協同組合としてのコミュニティによる強みの発揮等、協同組合としていかに地域社会と関わっていくのか、その大切さについて講演がありました。また、世界の協同組合の取り組みについても紹介され、協同組合人としてのあるべき姿を再認識することができた講演となりました。

平成27年度実践研究交流報告

“枝打ちボランティア”に参加

昨年度は、「もりふれ倶楽部」主催の雲南西小学校「いわくまの森」枝打ちボランティアに参加しました。総勢33名の内、当協議会構成団体から17名が参加しました。



特別非営利法人理事・事務局長の野田氏より、子どもたちの学習の場としての「いわくまの森」と、節のない木材を作る、日当たり、風通しの良い森の環境をつくるという枝打ちの趣旨についてお話を聞きました。

また、間伐についても、年輪の目の詰まったほうがよい木なので、育ちの悪い木、太い木を優先して間伐することや、売れるよい木は70年から80年かかるので、一代の話ではないなどいかに森を守ることが大変か考えさせられました。